

寺
こよみ

十月

一日 板屋お講
 一日 清掃奉仕
 二日 富山滑川報恩講
 三日 お道具磨き
 四日 歎異抄講座
 五日 三日市お講
 六日 米とぎ
 七日 報恩講準備
 八日 報恩講速夜初夜
 九日 報恩講ご満座
 十日 魚津報恩講
 十一日 真照寺報恩講
 十二日 経田柳沢窪野
 十三日 田家報恩講
 十四日 東狐・青木報恩講
 十五日 称名寺報恩講
 十六日 飯野芦崎報恩講
 十七日 板屋報恩講
 十八日 セレネ（結城美栄
 十九日 子朗読の会）に雪
 二十日 ん子賛助出演
 三十一日

寺報

善 巧

発行

〒938-0862 富山県
 下新川郡宇奈月町浦山497
 白雪山 善 巧 寺
 TEL (0765) 65-0055
 FAX (0765) 65-0975
 メール zengyou@box.email.ne.jp



親鸞聖人坐像（常敬寺所蔵）

十月十九、二十日
 報恩講
 十一月四、五日
 空華忌

先日、比叡山の無動寺
 谷を訪れ、千日回峰行を
 終えられた上原行照阿闍
 梨に、お話を伺いする
 好機を得ました。

千日回峰行は、比叡山
 の峰々谷々の諸堂靈跡二
 百六十余カ所を礼拝しな
 がら、毎日三十キロを
 超す山道を歩き回り、
 七年間で千日の行を完
 了するもので、七百日
 直後には、九日間の断
 食・断水・断眠・不臥
 の行も待っており、し
 かも途中で投げ出すこ
 との許されないといい
 決死の苦行なのです。

阿闍梨は、私たちに
 対しても同じ仏教者と
 して敬意を表しつつお
 話くださったのです
 が、最後におっしゃっ
 た大変謙虚なお言葉が、
 かえって私の心に印象
 深く残りました。

「千日回峰行は、難行
 ではありませんが、決して
 不可能な行ではありません
 せん。幸いに私は、自ら行
 を終えられた師匠に、直
 接指導を受けることがで
 きたおかげで、満行の日
 を迎えることができたの

いづれの行もおよびがたし

です」
 それから数日経ったあ
 る日、私はふと『歎異抄』
 第二条の「いづれの行も
 およびがたき身なれば、
 とても地獄は一定すみか
 ぞかし」という親鸞聖人
 のお言葉を思い出し、上
 原阿闍梨の言葉と重ね
 ながら、聖人の回心に
 ついて考えていました。
 聖人は比叡山の行に
 挫折して山を下りられ
 たのか。いや、そうで
 はない。どのような行
 をやっても、仏さまの
 心に少しも近づけない、
 ということに苦悶され
 たのだ…。

「親鸞におきては、
 ただ念仏して弥陀にた
 すけられまゐらすべし
 と、よきひとの仰せを
 かぶりて信ずるほかに
 別の子細なきなり」聖
 人を導いてくださる師は
 山外におられる法然聖人
 でした。「いづれの行も
 およびがたき身なれば」
 とは、確かな救いの喜び
 に裏付けられた言葉だっ
 たのです。

行信教授講師

藤澤 信照 師

平

花

本願を聞く 最終回

行信教校長 梯 實圓 師



第十八願（本願）に「至心に信樂して、我が国に生まれんとおもへ」と仰せられた「至心」とは、如来さまの本願には「うそいつわり」のない真実心ということの意味している。親鸞聖人は仰せられました。そして「信樂」とは、その「うそいつわり」のない本願を疑いなく受け入れることを意味していました。この信樂というのが信心

のことなのです。インドの言葉で「ブラサーダ」というのを中国語に翻訳して信樂というわけです。この本願が完成したことをお釈迦さまがわたしたちにお告げくださる本願成就文（『大経』の下巻の初めに説かれている）では、信心歓喜と訳されていますから、信心といっても、信樂といっても同じことです。

とところで中国語の信には真実という意味があります。親鸞聖人が信の字訓を挙げて「信の言は、真なり、実なり、誠なり、満なり。」と言われたのはそのゆえでした。信という言葉には真という意味があるんです。ですから至心（真実心）と共通しているわけです。しかし同じ真実ですが、「信」の場合は人偏に言という字が書いてあります。信という字は中国語では、真なんだけれども、とくにその言葉に「うそいつわり」がないことを信というんです。嘘も偽りもない言葉には、これが信という言葉にこもっている意味なんです。ところで人間の言葉には、嘘と偽りと裏切りがつきものですから、「信」とか「真」という言葉が文字どおりに適用できるのは、如来さまのお言葉だけであるというのが仏教徒の領解でした。

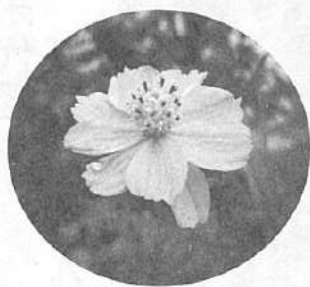
そのような嘘も偽りもないお言葉を聞いたとき、それを疑うことはまことに失礼なことです。まことの言葉は、疑いをまじえずに、仰せの通りに聞き受けるべきですから、信には「疑いをまじえない」という意味が自ずから具わっています。それゆえさきに申しましたように、『尊号真像銘文』には、「信樂といふは、如来の本願真実にましますを、ふたごころなくふかく信じて疑はざれば、信樂と申すなり」といわれたのでした。

こうして親鸞聖人は、阿彌陀如来さまの本願のみ言葉を仰せのとおりに疑いなく受け入れることを信樂とも、信心とも言うわけで、『一念多念文意』には、「信心というは、この御ちかひをききて疑うこころのなきなり」と信心という言葉に定義しておられます。



の和上方は、「勅命の外に領解無し」と教えてくださっています。

ここでみなさんに知っておいて頂きたいのは何を信ずるのか?ということなんです。それは如来さまの仰せです。如来さまの本願のお言葉を仰せのとおりに受けいれることを信心というんです。お浄土があるかないか?如来さまがいraftしやるのかどうか?そんなことを問題にしかけたら何も分からなくなります。お浄土といつても、如来さまといつても、本願のお言葉の中に「我が国に生まれんとおもえ…もし生まれずは正覚をとらじ」とおっしゃっている、



「我が国」がお浄土であり、「正覚」が如来さまなのです。ですから、本願のお言葉を疑いをさしはさまずに受けいれるところに、お浄土も如来さまもすつとわかってくるのです。もともとさとの領域であるような浄土は、人間に分かるような境界ではないからです。私どもに解っているのは、煩惱によって描き出され

「信心」とは如来さまの仰せを受けいれること

「信心」によつてのみ浄土は知ることができるとです。

さてその本願の仰せの内容は何かといつたら、「欲生我国（我が国に生まれんとおもへ）」というお言葉です。「私の国に生まれようと思ひなさい」といわれているわけです。親鸞聖人は、『教行証文類』の「信文類」に、「欲生といふは如来、

虚しく、罪深く生きるしかない者ということです。そのような私どもに向かつて如来さまは、「愛と憎しみを超え、生と死を超えた安らかなさとの領域へ生まれてくるんだよ」と呼び続けていくのださ

というのです。この仰せを「まこと」と疑いなく受けいれることを信心というんですが、その信心には「必ず浄土に生ま

とおもえ」といわれたお言葉によつて、私どもは真実の信心を恵まれるのでした。親鸞聖人は、この至心、信樂、欲生の三心は、如来さまの本願の仰せを疑いなく受けいれる信樂の一心に収まっているといい、しかもその信心は、私の心に起こっている真実ではあるが、私の心から起こつたものではなくて、私どもを浄土に生まれさせて、完全

なさとの身に成らせようとする如来さまの智慧と慈悲のたまものであつて、信心の本体は仏心であるから、よく往生成仏の種（因）となるといわれました。これを信心正因といいます。

・・・完・・・

た、好きか嫌いか、損か得か、敵か味方か、生か死かといった迷いの境界だけです。迷いを超えたさとの領域は、ただ仏と仏だけがしるしめすから、阿弥陀仏は本願のお言葉として表し、お釈迦さまは『大経』を説いて私どもに知らせてくださっているのです。そのお言葉を素直に、仰せのとおりに疑いなく受けいれる

諸有の群生を招喚したまふ勅命なり」とおっしゃっています。「諸有の群生」とは迷いの境界に住んでいるさまさまな生き物ということですから、要するに迷っている者ということです。迷っていると

は、生の意味も分からず、死の意味も分からず、しかも自己中心の想念に心は閉ざされて、愛と憎しみに揺れながら、一生を

今回で十五年度報恩講より梯實圓和上のご法話は終了です。ここに頂いたご法話は冊子にまとめさせて頂く予定です。

永代経

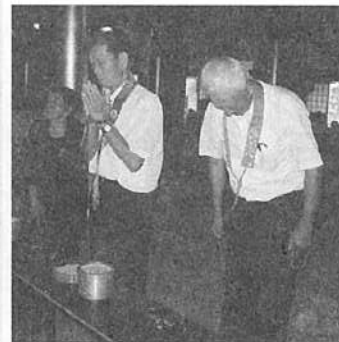
七月十六、十九日



今回のご講師霊山勝海先生が富山へ向かわれる最中福井の大雨にあわれて足止め。十八日昼の法座には間に合わないというハプニングがありました。夜の法座にはなんとか間に合わせ、休む間もなくご法話を頂きました。今年では会館で初の試み、仏婦によるバザーや、谷川久美子さん（下立）の作品展示が同時に行われました。

畢竟依

佛子縁象





この夏のベ **1000** 人!



仏教婦人会研修会

七月三日

第三回研修会には、栃
沢・浦山・東狐・下村・
大橋・栗虫・荻生・下立・
音沢などから三十七名が
参加。副住職の『仏弟子
の生き方』を聴聞の後本
山制作ビデオ『恵信尼様』
を観ました。



雪ん子定期公演

八月二十一日



天候に恵まれた夏の公
演は大銀杏の木の下で行
われました。新しく二年
生が加わった『うち
のとうちゃんえらい
んだ』『こどもの祭
り』の二本立て。

『明日に向かって』
の歌唱指導では満場
のお客様が一緒に楽
しく手話をしながら
歌ってくださいまし
た。フィナーレでは
花火が打ち上げられ
皆さんすっかり満足
した様子でお帰りで
した。



寺
ごよみ

十一月

空華忌

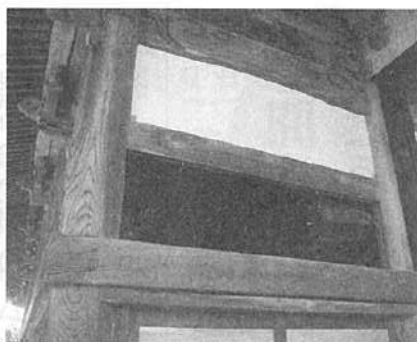
一日	愛本新お講
二日	順昌寺報恩講
四日	空華忌準備
五日	午後七時
四日	午前十時
五日	午後一時
講師	高田慈昭師

八日	発願寺報恩講
九日	上野報恩講
一〇日	歎異抄講座
一一日	中新報恩講
一二日	出報恩講
一三日	浦山新お講
一六日	中陣報恩講
一七日	石田報恩講
一九日	析沢報恩講
二四日	浦山新報恩講
二九日	
三〇日	

…宮繕部から…

九月七日夜九時過ぎ、

台風直撃により、境内の木が一本根こそぎ倒れ、本堂の壁もひとつ破損。また、花の会例会は十六日に変更となりました。富山県内での農産物の被害は約五億円と、戦後二番目の大被害。富山市では、最大瞬間風速四十二・



七メートルで、富山地方気象台の観測史上最も強い風ということです。

お寺では野島責任役員と岡田宮繕部長がかけつけて、倒れた樹木を伐採し枝を払って始末したり、樹木に引っかかっていた飛んできたトタンをはずしたりと大変な作業をしてくださいました。

宮繕部の今年の計画であった集会所屋上の防水工事は九月から始まりました。まず屋上全体の洗浄をしてから、防水作業はおよそ三日間。台風の被害で防水業者さんが忙しくややくれましたが、九月末には完成しました。



…八木さん往生…



中央が八木さん。左に前々住職、右に柳家小三治師匠

去る八月十二日、夢を語る会とその家族、雪ん子OBが集まって子供盆踊りのチョウチン吊りをしました。八木秀雄さんも一緒に楽しく仕事をしてくださいました。翌日その八木さんが救急車で病院に運ばれたという知らせを受け、心配するまもなく亡くなったという知らせが入りました。まさに朝に紅顔あつて夕には白骨となれりそのものを教えてくださいました。

八木さんは前住職隆弘と特に気が合い、夢を語る会発足メンバーとして、子供盆踊り、野休み落語会など、大いにお寺を盛

り上げてくれました。亡くなる前日までお寺に足を運んでくださった八木さんは、聞法会、お講、聞法旅行などお寺の行事に多くの方を誘って、またいつも人を楽しませてくださいました。晩年は総代教化部副部長として、この寺報の門徒コーナーにも数回執筆してくださいました。本当に有難いお同行でありました。今はお浄土で先に往かれた方々と会い、還相廻向してくださいています。



寺
こよみ

十二月

- 一日 下立愛本お講
- 二日 愛本新報恩講
- 三日 愛本新中ノ口
- 五日 赤田報恩講
- 六日 清掃奉仕
- 八日 下村報恩講
- 九日 下村・大橋報恩講
- 十一日 内山報恩講
- 十三日 音沢報恩講
- 十五日 音沢報恩講
- 一六日 浦山お講
- 一七日 音沢報恩講
- 二一日 音沢報恩講
- 二二日 歎異抄講座
- 二六日 雪ん子記念公演
- 二九日 米とき
- 三〇日 もちつき
- 〃 日校もちつき
- 三一日 除夜会



報 恩 講

浄土真宗で最も大切な法要です。

十月十九日 午後一時半 お逮夜

午後七時 お初夜

二十日 午前十時 お日中

午後一時半 ご満座

「選択本願の仏教」

発願寺住職 川崎順正 師

聞法の秋です。どうぞ
どうぞお参りください。

空 華 忌

善巧寺限定の最も大切な法要です。

十一月四日 午後七時 お初夜

五日 午前十時 お日中

午後一時 ご満座

「浄土真宗の特色」

本願寺派司教 高田慈昭 師

ほんこさん

十月十二日富山から
年に一度のほんこさま、
大切におつとめいたしま
しょう。赤いろうそく、
お香、お花、聖典、式章、
お念珠を用意しましょう。
おつとめの『お正信偈』
は是非ご一緒にどうぞ。

報恩講準備

十月十一日午前八時半

清掃奉仕

十三日午前八時半

お道具磨き

十七日午前八時半

米とぎ

十八日午前八時半

お華束・掃除

空華忌準備

十一月四日午前八時半

お華束

屋内清掃

越冬清掃奉仕

(雨天順延)

十二月五日午前八時半

日曜学校

もちつき大会

十二月三十日午前十時

除夜会

お勤め

十二月三十一日

午後十一時半

除夜の鐘

一月一日午前〇時



合 掌

この夏は、異常な暑さ
と豪雨、台風、火山の噴
火など多くの災害があり
ました。皆さまの所では
いかがでしたか。お見舞
い申し上げます。



この夏、のべ千人以上
の方がお寺に足を運ばれ
ました。その半分を子供
たちが占めています。

すぐにきれて人を殺し
てしまう命の尊さを知ら
ない子供たちと言われま
すが、子供たちはみんな
授かり者です。次の時代
を託していく大切な命で
す。一人でも多くご縁を
いただいて仏様のお慈悲
のお心を知って欲しいと
願います。

